

都市農業振興計画中間見直し検討委員会 第1回会議 要録

- 日時 令和7年9月2日(火) 10:00~12:00
- 場所 和光市役所 3階庁議室
- 出席者 1号委員 郭 洋春 (都市農業に関する専門的な知識経験を有する者)
2号委員 田村 敏 (和光市商工会)
3号委員 金森 貴子 (和光市都市農業推進協議会)
3号委員 田中 陽平 (和光市都市農業推進協議会)
4号委員 清水 永悟 (あさか野農業協同組合)
5号委員 福田 佳人 (公募)
- 欠席者 0人
- 傍聴者 0人
- 事務局 市民環境部長 渡辺 正成
産業支援課課長補佐 大里 裕美子
産業支援課農業振興担当統括主査 内藤 篤
産業支援課農業振興担当 井上 翼

1 開会

2 挨拶

市民環境部長挨拶

委員 自己紹介

事務局 自己紹介

3 議事

議題第1号 計画の評価について

【郭委員長】

議題第1号 計画の評価について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、「計画の評価について」説明いたします。事務局で評価をとりまとめた結果、資料1の評価表のとおりとなりました。

こちらの評価表について説明します。1枚目の要約版に4つの基本目標ごとに総括を記載しています。その右側にそれぞれの項目ごとに取組内容や課題を要約して記載しています。

2ページ目以降は1~4の基本目標ごとに、左から「主な事業・施策」、その右に「施策の展開…これは計画の内容そのまま掲載したものです」。その右側にそれに対する実際の取組状況や課題を記載。その右側に見直し時にポイントなる点について事務局からの視点で記載しました。なお、評価表内の「取組」の欄を色分けしています。水色は順調に計画が進んでいる状態、緑色は問題なく計画が進んでいる状態、オレンジ色は、進捗が十分でない状態と、3色に分けて

示しております。

こちらの分類は、委員の皆様には評価から検討しやすくするため、事務局の所見で整理させていただきました。委員の皆様の評価と異なる部分はあると考えておりますので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。

【基本目標 1 担い手の育成と確保】

【事務局】

基本目標 1 担い手の育成と確保について、資料を基に総括部分を読み上げますので、色分けの状態をご確認ください。

(総括部分読み上げ)

基本目標 1 の説明を終わらせていただきます。

【郭委員長】

事務局から説明がありました基本目標 1 について、ご質問ご意見はございますか。特にオレンジ色の部分は進んでいないということですので、皆様からのご意見をいただきたいと考えております。

【郭委員長】

新たな農業の担い手の確保のところでボランティアがコロナ禍以降に自然消滅してしまったということで、今両方とも 0 件とのことですが、事務局としては、コロナ禍以前の状況にすることを考えていますか。以前はどのくらいの登録者がいたのですか。

【事務局】

令和 6 年度中はやりたいという人も 0 件で、手伝って欲しいという農家さんも 0 件でした。今年度に入ってボランティア募集しているかという問い合わせが 1 件だけあったという状況です。事務局としては、以前のような状況にするには、どれだけ需要があるのかを把握してからの方がいいかなと考えています。

以前は登録者が 30 人程いましたが、やりたいこと、やってもらいたいことが乖離していてマッチングしない状態でした。お願いする側も無料でお願いすることに抵抗があったり、信頼関係を築くまでに期間がかかってしまうというような意見がありました。

【郭委員長】

解決手法として、うまくマッチングできるような仕組みを作る等、事務局は何か考えていたのでしょうか。

【事務局】

コロナ禍以降は特に動きはありません。

【金森委員】

生活クラブに所属していますが、以前農家さんの組合員さんが朝の野菜の水洗い作業で人が足りないから、生活クラブの中で援護してくれる人はいないかということで声掛けをいただいて、繋いだ覚えがあります。参加された方はいました。今では農園を借りている方がお手伝いに行くとのことでした。

【郭委員長】

潜在的なニーズはあるようなので、顕在化するような仕組みや広報活動をすれば、以前の方々も戻ってきたり、ハードルの低い援農ボランティアができたり、マッチングの不具合も解消できるような気がしますね。

【田中委員】

⑤番の新規就農についてなんですけど、やはり畑がないので新規参入する余地が無く、僕は不可能に近いのかなと思ってしまいます。

農業者の仲間が増えることはいいことですが、農地は皆さんフルで使っていて、人に貸せる余裕もないようです。既存の農家ももう少し畑貸して欲しいって思ってるぐらいなので。

【郭委員長】

遊休農地があれば別なんでしょうけども、既存の農家の方々が、もっと畑を使いたがっているということであるならば、この項目自体が非現実的な項目になっているのでカットしても良いのかもしれないですね。

新規就農者ではなく、既存の農家さんがお互いに農地を貸し借りすることの方がより現実的かもしれないですね。

【田村委員】

援農ボランティアは市内の人だけなんですか。現在も募集や登録はされているのですか。

【事務局】

市内・市外が半々ぐらいでした。毎年このボランティアやるにあたっては保険に入っていたいていしましたが、その保険の更新が今はされていない状態です。

募集についてはホームページに掲載があり、いつでも登録もできますが、農家さん側の需要があるかわからないので、応募があった場合にはマッチングはできないかもしれませんと伝えていきます。

【郭委員長】

まず農家さんの側がボランティアを求めているかどうかを実態調査して、あるならばそれに見合うような形の広報活動、宣伝活動をしたり、例えば田中委員の後継者倶楽部のような組織を使って、協力をいただくとかいろいろなやり方があると思います。

【田中委員】

自分の場合は1人で完結してしまう規模なんで、もう少し規模の大きい団体に所属してるの方

の意見も聞いた方が良いかもしれないですね。もしかしたらボランティアを求めている農家さんもいらっしゃるかなと思います。

【■基本項目2 農地利用と最適化と多面的機能の発揮】

【郭委員長】

続いて、基本目標2について事務局から説明をお願いします

【事務局】

(総括部分読み上げ)

【郭委員長】

基本項目2につきまして何かご質問やご意見等ございますでしょうか。

遊休農地がないと、さっきの新規就農者の畑が無いという話に繋がるかなとは思いますが、これはどうしようもないんですよね。

【事務局】

遊休農地ではありませんが、耕作や管理が行き届かずに雑草が伸びている農地はあります。農業委員会で適正な管理をするよう指導したりすると、草刈りしてくれたりしますが、管理が大変なのであれば他の農家さんに貸しませんかって伺ってみると、断られてしまうケースが多いです。

【郭委員長】

そういう農地の割合は結構多いんですか。

【事務局】

全体としてはごく限られた農地です。指導が入るところは大体同じ農地で、毎年夏ごろになると伸びてしまうというような傾向にあります。

【郭委員長】

利活用がなかなか難しいところなんですね。要は、遊休農地ではないけど他人に貸そうというのも抵抗があるということで、そのままにしてしまうのですね。

そこをうまく活用できるような、農業振興でご要望を伺うとか、市の方からも何か提案して差しあげたりすると、面白いかなって思います。

市民農園として貸し出すのであれば、そこは誰に渡すわけじゃないのでということはあるような気もするんですけどもね。その点はどうですか。

【事務局】

市民農園は新倉8丁目内に集中していて、それ以外の場所で作るには、市での管理が難しいので使われていない農地をすべて市民農園にするのは難しいと思います。

【郭委員長】

新倉8丁目しかない、そこに近い人は良いけど、遠い人は困ってしまうので、逆に近いところでも市民農園が簡単にできるとなると、利活用できるかもしれませんね。

【郭委員長】

都市農業振興に向けた環境の整備④の要望というのは要望する機会が結構あるということですか。

【事務局】

埼玉県農業会議が農業委員会からの意見を毎年募集していて、農業委員さんから内容を聞いて要望を出すってところなんですけれどもそこで要望が出ないと、特に要望が無しということもあります。

この項目については、事務局の方で気になっている点があるんですけど、市の取組として、国に要望するだけでなく、何か他に環境の整備としてできることがあるのではないかなという気はしています。

都市農業振興計画策定のときのアンケートの回答を見ると、税制についての要望を国にするという回答が5割近くあったので重点になったのではないかなと思います。

【郭委員長】

このアンケートは農地の保全や活用のために重要と思われるものに〇ってという回答で相続税の納税猶予の終身義務の要件緩和等を国に対する要望。選択肢が四つしかない、これ以外答えようがないからどうしてもこの回答に集中してしまいますよね。

【事務局】

確かに相続税は農家さんとしては一番ネックになってるところだと思うので、この回答に集中したのではないかと思います。

【郭委員長】

本当に農家の方からのご要望を受けようと思えばご自由記載にした方がよろしいかと思いますよね。

【■基本目標3 農産物の付加価値の創造と販売力の強化】

【郭委員長】

続いて、基本目標3について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(総括部分読み上げ)

【郭委員長】

こちらにつきましてご意見等、ご質問等ありましたらよろしく申し上げます。

【清水委員】

①わこ産わこ消の推進のところ取り組み状況の中では学校給食への供給量の増加は学校側の事情により増加が困難となっていますが、学校からの需要がないんですか。

【事務局】

ないわけではないんですけども、欲しいタイミングでキャンセルされてしまったりということもあったり、学校側でも使いづらさのようなものがあるようです。

【清水委員】

学校給食は農協の方でやっているの、その辺は承知してはるんですけども、鶏が先か卵が先かというところで、学校の1年間の要望っていうのがあって、それを目指して今後は生産者の方も生産していくとか。そういう形をとらない限り、これ絶対増えていかないんですね。

皆さんが生産したのに対して、学校給食だけで使ってもらえませんかとなると、その年の出来不出来っていうものもございまして、あとは価格の部分とかがあっていうところで学校給食は財源が限られているというところで、農家の方から買うよりは、他で仕入れた方が安いなんてなるとどうしても同じ生産物もそっちに行ってしまうとかがあっていうところもあります。

学校の栄養士さんたちにも和光産を第1に考えていただいた中で、未来ある子供たちに地元の野菜を味わっていただく。

地元産の野菜の生産量は多くても価格が高く、学校給食での利用が進まない。限りある財源の中でも、可能な範囲で地元食材を優先的に使っていただくよう、学校にもご理解をいただきたいところです。

学校給食は調理の時間もあるため早朝納品などの負担が大きく、このあたりも改善できたら良いと思います。学校給食は当日仕入れたものという基本ラインがあるようなんですが、前日納品でも品質管理ができるよう、仕入れ体制の見直しを検討していただけたらと思います。

地元農業の支援と食育の観点から、学校側の理解と協力を強く求めたい。

【郭委員長】

ただいまのご意見を受けまして、事務局いかがでしょうか。

【事務局】

学校が市内に点在しているため、農家が朝に複数箇所へ納品するのは大きな負担となっているという点は伺っています。前日納品の柔軟化や、援農ボランティア活用による配送支援ができれば負担軽減になると思います。

【清水委員】

そうですね。援農ボランティアの人たちも農作業だけじゃなくて、子どもたちに供給するお手伝いができるようになったら、もっと喜んで手伝うんじゃないですか。

【郭委員長】

ボランティアの既成概念を変えるのはいいことだと思います。

今清水委員がおっしゃったように、農家の方と学校と市と含めて、年間でこれぐらい、この月にはこれを使いましょうと決めておいて、それに向けてやっていく。

市として、これが非常に重要な施策なんだと考えれば、思い切って和光市のPRとして、子どもを大事にする市っていう形で予算をつけますとPRしていけば、市民の方々も、その周りの方々も、和光市は子どもに優しいまちなんだと思ってもらえるのではないのでしょうか。

子どもも都市農業も大事にする町という新たなPRをすることによって、住みやすいまちに繋がって、地域ブランドの向上へも繋がっていくと思います。財源というよりは、これが重要な課題なんだと位置づけて、是非やっていただきたいです。

【金森委員】

子どもたちに地元のを食べてもらうのは大事なことなので、是非すすめていただきたいです。

【郭委員長】

食育もやってるんですか。

【清水委員】

基本項目4の③食農教育があるので、多少なりとも今やってはいただいているところもお伝えしますね。農協の職員や農家の方が学校に行き、出前授業をやったりもしています。

【田中委員】

給食の予算も限られていると思いますが、経費は年々上がってきてますし、農地も限られているので単価を上げることを目標にしてる農家さんが多いと思います。そうするとどうしても高めになってきてしまうので、そこが給食費を抑えたい学校側とミスマッチしてしまうのかなと。給食費を抑えるってのはどうだろうって、個人的には思うんですけどね。

【清水委員】

田中委員が言ったとおり、生産性も上がって経費も上がってるんで、農産物の価格が上がってしまいます。

工業製品は原材料が上がれば価格が上がるのは仕方ないとなるんですが、なぜか農家の野菜に関しては、上がったならそれはどうかしてくれって言われてしまいます。

【郭委員長】

食費を抑えるというのは、子どもの成長を抑えるのと同じだから、学校は知識を教えるだけじゃなくて、肉体的精神的にも成長を後押しするのが大事だと思います。

全国的に給食費を抑える流れがありますが、逆に和光市は給食費についてはもう出しますよ

と、そうなったら全国から若い世代が来るんじゃないですか。

【清水委員】

和光市の人口は増えてますからね。

【郭委員長】

他市と同じことをしても差別化できないじゃないですか。ですから他のところの予算は削ったとしても、逆にここの予算は増やすぐらいの心意気があるといいですね。

せっかく東京から一番近くて、交通の便も良いので、さらにもう一段階、上を目指すということで子どもに優しいまちっていうのは、イメージとして非常にいいんじゃないですか。

【清水委員】

④直売施設の基盤整備と活性化の部分で、新たな直売施設としての農業体験センターのパーベキュー施設の改修を今考え検討中となっていますが、進捗状況はいかがでしょう。

【事務局】

具体的な内容はまだ決まっていますが、令和10年度からということで検討しています。

【清水委員】

③番の野菜配送事業のところについてはいかがでしょう。

【事務局】

令和9年の予定ですけども、まだできるかどうかは確定してはいません。

【清水委員】

地元で消費していただくということであればこの販路の拡大は必要不可欠な部分だと思います。

高齢化社会で、今まで買いに来ていた人が急に来なくなったので聞いてみたら、野菜は重たいので足が悪くて車も乗れないので買い物に出られないという方がいらっしゃいました。

新鮮な野菜を買いたいという方は非常に多くいらっしゃいますので、農協でも軽トラ市をさせていただいています。

野菜の配送事業、またパーベキュー施設の野菜販売等々、ご協力させていただくことがあればさせていただくのと、市民の方にはぜひ和光市のものをしっかり食べていただくというようなところをお願いできれば、都市農業振興計画も生きてくると思いますので、ぜひ具体的に進めていただきたいと思います。

【福田委員】

農業体験センターの意見がありましたので、私の方から説明させていただきます。

体験センターの方に農家さんから、作物が余ったから収穫して持って行って欲しいという話が

時々あります。我々はそれを取って、体験センターの前にご自由にどうぞと置いておくと、みんな持って帰られるということがあります。

フードパントリーについては、農家さんから規格外で出荷できない野菜の処分に協力してほしいと頼まれると、捨てるんだっつらもったいないということで我々がNPOを通じて、農産物を子ども食堂に配っています。

【郭委員長】

規格外で処分する野菜を子ども食堂に活用するというのは本当に素晴らしいですね。

買物困難者って結構多いんですか。

【金森委員】

週に1回来る配送サービスですごく助かってますっていう方高齢の方の話はよく聞きます。

【郭委員長】

こういうところをトラックなど借りて援農ボランティアの方をお願いしたいですね。

【清水委員】

生産だけじゃなくて販売もしないと農家の方の収入にならないですし、市民の方にも行き届きません。実は販売する人手が今いないんですよ。そこを援農ボランティアの方にご協力いただくと、すごく良い仕組みができると思います。

販売するのが好きな方もいると思うので、ボランティアを何か多様に活用していただくとありがたいと思います。

【郭委員長】

普通のボランティアじゃなくて、それが援農に繋がってると思ってもらいながら、販売や運転も得意な方が協力してもらえたらいいですね。

バーベキューについては富士見市に雨天でもできる巨大なバーベキューセンターありますよね。ああいうのが和光市にできれば都心に一番近いバーベキュー場ができますよね。

肉野菜は近くのスーパーで買ってきたら手ぶらで行けるところになれば、ますます和光の農業の活性化にも繋がると思います。令和10年からと言わず、もっと早く具体的な計画を立てて、バーベキューだけでは飽きてしまうかもしれないので、それ以外にお子さんが遊べる設備とか、あるいは若い子がアスレチックできたり、憩いの空間とか、広い意味でのアミューズメントセンターみたいなものを作ったりしてもいいんじゃないかなと思います。

【田中委員】

配送を援農ボランティアにお願いできたら、その30分か1時間くらいは農作業に注力できるので、また生産量が上がるのかなと思います。

【基本目標4 農業への理解の醸成と交流の活性化】

【郭委員長】

続いて、基本目標4について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(総括部分読み上げ)

【郭会長】

事務局から説明がありましたが、気づいたことやご質問とございましたらよろしくお願いたします。

【金森委員】

北原小学校が農産物共進会に出品したのは、どういう経緯で出品するようになったんですか。他の学校は出品しなかったんでしょうか。

【事務局】

北原小学校の学校農園に登録している農家さんがいらっしゃったんですけれども、農家さんから共進会に出品したいと相談がありまして、他の学校にも聞いてみたんですけれども時期的に難しいとの回答でした。大和中学校は来年はできるかもしれないとお話をいただいているので、聞いてみようかとは思っています。

【郭委員長】

校長や副校長も集まっていたいて、この共進会の意義と、その意味を説明して協力を仰いだり。実際北原小学校を成功事例として情報交換して、横に展開をすると良いんじゃないですかね。

校長先生の中では、やり方がわからず暗中模索してる方もいらっしゃるだろうから、こちらから学校に提案することで参加校が増えていく可能性もありますよね。

【清水委員】

時期的に出品できなくても、パネル展示でもいいのかなって思うんですよね。夏には子どもたちがヒマワリとかヘチマ作って、こんなのはできましたよ等、それだけでも展示しておくとお子さんたちは自分の作品を見に行きたいってなると思います。

【事務局】

去年は北原小学校が野菜の出品とパネル展示をしたので、普段の共進会のお客さん以外にも、お子さんが親の方と来ていただけたと思うので、今後もできたらと思います。

【郭委員長】

小さい子が来れば親も必ず一緒に来ますので、そうすると親子の関係もより一層密になったり、学校との信頼関係もできたりすると思います。こちらから提案して校長会で一つの議題にしてもらっても良いと思います。

【福田委員】

現在は米作り・麦づくりはやっていませんが、体験センターに米作り体験をやったときのパネルが置いてあります。農作物の基本が米作りだと僕は思いますので、ぜひ復活してほしいと思っています。

一つの遊びですから、泥だらけになりながら田植えはこういうのもできるんだと遊びながらやるというのも子どものためにもいいのかなと思うんですけどね。

こうやって麦を作るんだよっていう話をしたり、その麦からうどんを作って食べるんだよということ、防災対策で新聞紙を使ってお米を炊くんだよとか、体験センターの人間としてはやってもらえたらいいなと思っています。

【郭委員長】

確かにこれは利益の事も考えると熱意がないと難しいかもしれませんね。米不足もあって和光米のようなものがあれば非常に注目されると思います。

和光ブランドで新倉うどんがありますが、和光産の麦を使っていると、ブランドの価値が上がったりしていいんですけどね。

【清水委員】

4番の基本目標、農業への理解醸成のところで、都市農業は市民の方に理解していただかないと、本当にやりづらいというところがございます。農業者と消費者をしっかり繋ぐ交流事業を展開していくよというので④番がありますが、農業委員会の視察研修に、市民の方が同行するということですか。

【事務局】

今年度は都市農業推進協議会の方に同行していただきました。市民の中から広く同行者を募集ということはしていません。

【清水委員】

しっかり農業やってる人たちが矢面に立って肩身が狭くなってしまうような事も、農薬の散布だったり、土埃などの苦情も、都会の中だとあります。

都市農業への理解を深めるような情報発信をしていただくことを、今後ともお願いしたいと思います。

【事務局】

11月の共進会で野菜も展示するんですけども、あとは和光の農地についてや、農業委員会について等のパネルも展示をしたりしています。

先ほどの学校農園で作った野菜とかも展示して、親御さんにも来ていただければ、都市農業への理解に繋がるのかなと思います。

【郭委員長】

その共進会にはどれぐらいの方が参加されているんですか。

【事務局】

野菜の出品は去年は140点ぐらい展示されまして、近年の夏の酷暑もあって年々減っていった状態なんですけれども、市民まつりと同日にやっているので、そのお客さんが結構見に来てくれています。

【郭委員長】

先ほどの食育と絡めて、食育は栄養の話だけじゃなくて、地元で作ることの大事さ、大変さ、畑を耕して種を撒くところから、自然環境との関係とか人間関係とか社会関係が色々あるんですよってということもちゃんと説明するってということも食育の一環だと思います。

和光に農業があるならば、その存在を幅広く市民の方に知ってもらい、理解していただく機会をたくさん設けるのも大事な作業じゃないかと思います。

そのために、例えば基本目標の3の②の6次産業化というのも、うまくその生産者の方と消費者の方と、小・中学生も一緒にやって、みんなで新しい地域ブランドを作りましょうとやっていると愛着とか農業に対する理解が深まったりするのではないのでしょうか。

地域ブランドは、生産者任せで元からあるものを認定するだけではなくて、市がリーダーシップを発揮して、生産者と小・中・高校生も市民も一緒になってゼロから作るっていうのもあると思うんですよね。

子どもたちはアイデア豊富ですから、小学生が作った地域ブランドみたいな形で、農産物でお菓子が作れたりとか。それを市が事業者に製品化してもらって、広めていったりしたら農業に対する理解も非常に深まるかなという気もしますし、またそこで農産物の有効活用にも結びついていくんじゃないかなと思います。

【基本目標1~4まとめ】

【郭委員長】

基本目標の1から4につきまして、多くの委員の方々から様々なご意見をいただいたと思います。和光市都市農業振興計画の取り組みについては全部で施策事業で21項目がございます。そのうちの青、緑が17ですから21分の17が順調であるということですので、都市農業という厳しい環境の中でも、和光市は一定の政策を行っていて、農家の方々も非常に頑張っていたらということがあったと思います。

一方で、まだ進んでいないオレンジの項目が4つありますので、この点に関しては具体的にどのようにオレンジを緑もしくは青に持っていくのかというところを委員の方々も事務局の方々も、考えていただければと思う次第であります。

1から4全体を通して改めて何かご質問やご意見等ございますでしょうか。

【金森委員】

私たちの生命をつなぐ農業の未来を明るく豊かにするには、自然があつてこそだとおもいま

す。人口減少、高齢化、食料危機、災害、有事などありますが、新しい生命は誕生しています。緑、豊かな環境を次世代へつなぐためにできることから始めたいと思います。援農やりたいです。陽のあたらない我が家の庭で今年、さつま芋が収穫できました。感動しています。

米作りについてですけど、これから主食であるお米が食べられなくなる日が来るんじゃないかという心配があって、田んぼじゃなくても、小学校でバケツを使ってお米をすることで、お米って大事なんだよっていうのを子どもたちに伝え、主食である米はいつまでも食べられるっていう安心感と明るい未来を、子どもたちと一緒に作っていきたいなと思っています。

和光市でもお米を作ってほしいです。

【郭委員長】

できるかできないかっていう判断すると必ずできない方向に引っ張られちゃうんですね。どうすればできるかを、1歩でも2歩でも考えていくという発想をすると、新しいアイデアが生まれてくると思います。

今おっしゃったようにバケツを使って学校でやろうとか、いろんなアイデアが出る可能性があるので、関係者に集まっていただいて、まずは話し合うところから始めるといいのではないかなと思います。

農家の方は今でも大変ですから押しつけてしまうと駄目ですね。大変さをやりがいに持っていく、あるいはそれが利益に繋がっていくような、そういうことを市が中心となって、農協の方も、市民の方も一緒に考えていただくと良いと思います。

【事務局】

事務局では把握できてないんですけれども、小学校でビニールプールみたいなものでお米を作っているかもしれないです。

和光市内には田んぼがないので、田んぼで米を作るというのは難しいんですけれども、例えば十日町などの姉妹都市に行って体験するのは選択肢としては考えられます。

【清水委員】

水源として荒川があるので、志木市と朝霞市では米を作ってます。

場所を和光市に限らなければ、耕作していない田んぼはあるので、和光の方に使っていただくことは可能だとは思いますが。

委員長もおっしゃった、小・中・高校生の力ってすごくいいんですね。彼らの励みにもなると思うので、うまくコラボレーションして、市民の方を巻き込めるといいのかなと思います。

議題第2号 アンケートについて

【郭委員長】

続きまして、議題2アンケートについて事務局から説明をお願いします。

【事務局】

都市農業振興計画の策定時と同様に、農家向けのアンケートと市民向けのアンケートの2種類のアンケート実施を予定しています。振興計画策定時のアンケートと比較できるように、概ね同じ質問内容となっています。前回からの変更に関しては赤字で示しております。

【農家向けアンケートについて】

【事務局】

農家向けのアンケートについて説明します。各基本項目に対して、重要なものは何かに○をしてもらうという形になっております。

アンケートの実施方法は、前回同様に農家台帳に掲載されている農家に郵送で依頼する予定です。なお、アンケートを依頼する農業者は、農家台帳掲載の農業者197件の予定で、前回の228件から減少しています。

前回のアンケートでは、228件中144件回答をいただいております、回答率は63%でした。

赤字部分が前回からの変更点ですが、新たな設問や選択肢の追加修正などご意見をお願いします。農家向けアンケートの説明は以上です。

【郭委員長】

農家向けアンケートにつきまして何かご質問ご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

【田村委員】

問1の担い手の育成や確保についてですが、選択肢の一つとして、優良農地の確保を追加してはどうでしょうか。

【郭委員長】

選択肢2の、新規就業者への支援は、先ほどの話だと支援が現実的にできないということなので消してしまっても良いですね。

【清水委員】

全部の設問が重要と思われるもの1つに○となっていますが、いろんな意見を聞くのであれば複数回答にして集計した方が、今本当に皆さんが重要と思われることが把握できるかと思いません。

先ほどのアンケート結果でもそうですが、回答が1つだけだと結果が偏ってしまうと思います。本当はこれもこれも必要なんだけど、1個だけだと選べないので。

問1の選択肢5の援農ボランティア登録・派遣っていうのはこれはどのような意味合いなんですか。ボランティアの活用ということでしょうか。

あともう一つこの選択肢1、認定農業者への支援となっていますが和光市認定農業者は何人いらっしゃいますか。

【事務局】

援農ボランティアのところは登録・派遣だとわかりづらいので、活用という表現に変えます。認定農業者は40名程です。

【清水委員】

認定農業者に手厚くするのか、農業者全体を支援するのかというところで、認定農業者になるには目標もあって、生産を拡大していこうという方で、特に重点的というのはわかるんですけど、認定農業者でない農業者の方も頑張っていると思いますので、認定農業者にこだわる必要はないのかなと思っています。和光市は農業やってる方全ての方を支援してくんだという方向性もあると思います。ただ、行政の考えもあるのかなと思います。

【事務局】

認定農業者に絞るか、認定農業者以外も含めて支援するかというところだと思います。農業者全体という選択肢を追加することも可能です。

実際のところ、自家消費のみの農家さんっていうのもいらっしゃると思うんですけど把握しきれていません。市民農園として貸し出している農家さんっていうのもいらっしゃる様々ですので、そこも含めて支援するという方向性もありだと思います。

【郭委員長】

確かにこれだと40人の認定農業者は1番を答えますよね。

農業者全体への支援と、認定農業者への支援と2つ分けたいんじゃないですか。

【田中委員】

農業者目線だと自然と3番の農業団体への支援に丸してしまいますね。団体に支援してそこから広がっていったらいいかなと思って丸してしまいました。

【郭委員長】

農業団体を支援する、個別の農家を支援する、農業者全体を支援する、認定業者にも支援するという形にすると、一応全部が拾えるかなっていう感じはあるかもしれませんね。それと先ほどの援農ボランティアは活用ということで表現を変えていただくということでお願いします。

【市民向けアンケート】

【事務局】

市民向けアンケートについて説明いたします。農家向けアンケートと同様に前回からの修正点は赤字で記載してあります。

前はインターネットによる実施、各公共施設のアンケートの設置、街頭アンケート、イベント等での実施をしております。回答状況は333件でした。

【郭委員長】

市民向けのアンケートにつきまして何かご質問やご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

【金森委員】

問2の選択肢3品質が良いことと、選択肢4新鮮であることはイコールじゃないかなと思いますが、品質が良いことって意味が違うのですか。

【事務局】

3の品質が良いことは、見た目や形が良いとかそういう意味です。わかりやすいように品質の後ろに見た目・形と追加するようにします。

【清水委員】

農家用アンケートと同じで、回答を2つまでとかではなく複数回答できた方が良いと思います。それと、先ほどの援農ボランティアへの興味の有無についてズバリ聞いていただくような設問も追加してはどうでしょうか。

援農ボランティアについて声が多ければ、アプローチしても、反響もあると思います。

先程の話で、生産面だけでなく販売や郵送、そういう部分も含めての援農ボランティアへの興味の有無が拾えるような設問がいいのかなと思います。

【郭委員長】

そうしましたら使う方の農家のアンケートでも問1で援農ボランティアの活用について選択肢がありますので、活用する側の市民アンケートにも同じ設問を追加した方が良いと思います。

それと全部複数回答した方が、一番はこれ、二番目にこれと傾向がわかりますのでよろしいんじゃないですかね。前回とは違うかもしれませんが、より多くの意見を幅広く聞くには、縛らない方がよろしいかなと思います。

【清水委員】

最初の質問で自分のことを事細かに聞かれちゃうのかなと思うんですけど、この同居している家族の構成とかは何か知る必要があるんですか。性別はともかくとして年齢も必要で、職業が必要なのかなと思います。家族構成は何か必要あるんですか。あんまりたくさんを聞かれちゃうと嫌だと思う方も結構いらっしゃるのかなと思うんです。

無記名ではあるんでしょうけど、そこまで答える必要あるかなところもあると思いますので、この辺をもう1回アップデートしてもいいのかなと思います。判断の方は事務局に任せたいと思います。

【郭委員長】

そこは子どもがいるところに気を使うとか、夫婦だとかことかという傾向をつかみたいという事務局としての考えもあるかと思いますが、今一度検討していただけたらと思います。

アンケートの実施概要について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

農家向けアンケートについて、追加で修正のご意見がありましたら9月10日までにご連絡をお願いいたします。いただいたご意見を反映した修正版を作成し、郭委員長に確認していただいたのち、印刷・封入作業を進め10月上旬に発送する予定です。

アンケートの実施期間は約1か月とし、11月7日までに回答を求めることとします。

市民向けアンケートについても、9月10日までにご意見等ありましたら、事務局に連絡をお願いします。郭委員長に確認していただき、市のホームページや各イベント、軽トラ市等で実施をしたいと思います。

【郭委員長】

続きまして、次第4のその他について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

その他として、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

本日は皆様からいただきましたご意見・評価等を事務局で取りまとめ、アンケートの実施結果を集計し、農業委員会にて意見聴取、パブリックコメントを行う流れとなります。それらを踏まえ事務局で素案を作成します。

次回、第2回中間見直し検討委員会の開催については、令和8年1月～2月を予定しております。第2回の会議では、作成した素案の承認についてを主な議題とする予定です。承認をいただけましたら、市長に対して報告をし、見直し結果とする流れになります。

【郭委員長】

委員の皆様から何かご質問はありませんか。

ないようですので、以上で本日の議事は終了いたします。

4 閉会

【事務局】

本日の会議はこれで終了となります。委員会の運営に多大なご協力ありがとうございました。